

研 究 結 果 報 告 書

所属 上海海事大学

役職 日本語教師

氏名 隋 暁静

【研究のテーマ】

中日両言語における自己卑下発言に関する語用論的対照研究

【研究結果】

本研究は中国語と日本語の会話における自己卑下発言の使用例を集め、両言語における自己卑下発言に関する語用論的対照研究を行うものである。自己卑下発言の使用文脈や会話参加者のフェイス状態、発言の使用動機などの面から、自己卑下発言の語用論的機能及びそれに対する返答、そしてその使用意図を考察・分析し、研究結果として、中国語と日本語の会話における自己卑下発言は、いずれも対人関係の円滑化やフェイス維持を目的とする重要な語用論的手段であることが明らかとなった。まず、自己卑下発言は単なる否定的自己評価ではなく、相手との心理的距離を調整し、円滑なコミュニケーションを促進するフェイスバランス調整行動として機能していることが確認された。話者は自己評価を意図的に低めることで、相手に安心感や親近感を与え、会話の協調性を高める傾向が見られた。

また、「褒め」に対する応答においては、従来指摘されてきたように全面的に否定して自己卑下するだけでなく、一定程度それを受け入れつつも、緩やかに自己卑下を加えるといった柔軟な対応が確認された。これは、過度な謙遜がかえって不自然さを生むことへの配慮や、相手の評価行為を尊重する意識の表れであると考えられる。さらに、中国語と日本語の間には使用頻度や表現形式に差異が見られるものの、いずれにおいても自己卑下発言は社会的文化的規範に基づき、対人配慮の戦略として用いられている点で共通している。

以上より、自己卑下発言は「謙遜」という枠組みにとどまらず、状況や相手との関係性に応じて多様な語用論的機能を担う動的なコミュニケーション行動であることが示された。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

なし

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

隋曉静 (2024) 「日本語の自己卑下発話に対する聞き手の返答」『西日本教育研究』第10期, 2024年3月, p1-19.

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『日本語の会話におけるフェイスバランス調整行動に関する語用論的研究』
隋曉静 著 日本文化学術出版 校了 (2026年5月出版予定)